

## 「舞姫」が私たちに教えていること ～豊太郎の経験から学ぶこと～

私は「舞姫」が私たちに教えていること～豊太郎の経験から学ぶこと～について書くことにした。なぜなら、私自身、この「舞姫」を通して学ぶことがたくさんあったからだ。特に、豊太郎の行動には、納得する部分もある反面、その考え方は自分とは違うなと思うところもあり、私にとっては、勉強になることが多かった。だから、豊太郎がどういう人物で、どういう行動をとってきたのかを通して、学んだことを書いていく。

このレポートを通して、私たち一人一人が自分の考えや、意志をしっかりと持ち、変わろうと努力し、その第一歩として毎日充実した日々を送らなければならないことを、学んでほしい。

本文より、「されど我が胸にはたとひいかなる境に遊びても、あだなる美観に心をば動かさじの誓ひありて、常に我を襲う外物を遮りとどめたりき。」「余は父の遺言を守り、母の教へに従い、人の神童なりなど褒むるがうれしさに怠らず学しときより、官長のよき働き手を得たりと励ますが喜ばしさにたゆみなく務めしときまで、ただ所動的、器械的の人物になりて自ら悟らざりしが、今二十五歳になりて、すでに久しくこの自由なる大学の風に当たればにや、心のうちなにとなく穏やかならず、奥深く潜みたりしまことの我は、やうやう表に現れて、昨日までの我ならぬ我を攻むるに似たり。」「ああ、この故よしは、我が身だに知らざりしを、いかでか人に知らるべき。我が心はかの合歓といふ木の葉に似て、物触れば縮みて避けんとす。我が心は処女に似たり。余が幼きころより長者の教えを守りて、学びの道を歩みしも、みな勇氣ありてよくしたるにあらず、忍耐勉強の力と見えしも、みな自ら欺き、人をさえ欺きつるにて、人のたどらせたる道を、ただ一筋にたどりしのみ。よそに心の乱れざりしは、外物を捨てて顧みぬほどの勇氣ありにあらず、ただ外物に恐れて自ら手足を縛せしのみ。故郷を立ち出づる前にも、我が有為の人物なることを疑はず、また我が心のよく耐えんことをも深く信じたりき。ああ、彼も一時。」「この弱くふびんなる心を。」「赤く白く塗りて、赫然たる色の衣をまとひ、珈琲店に座して客を引く女を見ては、行きてこれに就かん勇氣なく、高き帽をいただき、眼鏡に花を挟ませて、普西!!!にては貴族めきたる鼻音にて物言うレエベマンを見ては、行きこれと遊ばん勇氣なし。これらの勇氣なければ、かの活発なる同郷の人々と交わらんやうもなし。」

豊太郎は、今まで、親の言うこと、上司の言うことになんの文句も言うことなく引き受ける、受動的・器械的の人間で、本当の自分自身の考えを決して表にあらわさない、偽りの作られた自分を持っていた。でも、そんな豊太郎に私は共感するところがあった。私からみた豊太郎は、石橋をたたいて渡るタイプの人だと思う。つまり、他人の動きを見てから行動をおこし、危険なことはせず、自分自身を守っているのだ。私にも、そんなところがある。だから、私自身も豊太郎の「本当の自分」も「一歩踏み出す力」がないと思う。しかし、ドイツに行き、大学に入ることで、今までの偽りの自分ではなく、真実の自分が次第

に表にあらわれるようになり、二度と器械的人間になるまいと心に誓った。そして、少女エリスと出会い恋に落ちる。

本文より、「何故に一顧したるのみにて、用心深き我が心の底までは徹したるか。」「我が臆病なる心は憐憫の情に打ち勝たれて、余は覚えずそばに寄り、「何故に泣きたまふか。ところに係累なき外人は、かえりて力を貸しやすきこともあらん。」と言ひ掛けたるが、我ながら我が大胆なるにあきれたり。」

その時のエリスを励ます豊太郎や、彼女を助けたいという思い、エリスを愛する気持ちから、豊太郎はすごく思いやりがあり、根がまじめで優しい心を持っているのだと思った。

また、友人である相沢と再会する。

本文より、「我が弱き心には思い定めん由なかりしが、しばらく友の言に従ひて、この情縁を断たんと約しき。余は守るところを失はじと書いて、己の敵するものには抵抗すけれども、友に対しては否とはえ答へぬが常なり。」「余は我が恥を表さん。この答へはいち早く決断して言ひしにあらず。余は己が信じて頼む心を生じたる人に、卒然ものを問はれたるときは、咄嗟の間、その答えの範囲をよくも量らず、直ちにうべなふことあり。さてうべなひしうへにて、そのなし難きに心づきても、強ひて当時の心虚なりしを覆ひ隠し、耐忍してこれを実行することしばしばなり。」「恥ずかしきは我が心鈍き心なり。余は我が身一つの進退につきても、また我が身にかかはらぬ他人のことにつきても、決断ありと自ら心に誇りしが、この決断は順境のみにおいて、逆境にはあらず。我と人との関係を照らさんとするときは、頼みし胸中の鏡は曇りたり。」

相沢からの誘いに断りきれず、受け入れてしまう。確かに、私も友人になにか誘われたり、頼まれたりすると断りきれずに引き受けてしまうことがよくあるから、豊太郎がそういう行動をとってしまうのはよくわかる。でも、私がそういう行動をとってしまった時、自分の意志をはっきりと持っていなかったと思う。だから、豊太郎自身も、自分で決断ができず、それがために後に自分で自分を苦しめることがあると思う。つまり、私も、豊太郎も「自分」というものをしっかりと持っていないんだと思う。

本文より、「相沢に問ひしに、さることなしと聞きて落ちみたりとのたまふ。その気色いなむべくもあらず。あなやと思ひしが、さすがに相沢の言を偽りなりとも言い難きに、もしこの手にしかもすがらずは、本国をも失ひ、名誉を引き返さん道をも絶ち、身はこの広漠たる欧州大都の人の海に葬られんかと思ふ念、心頭を衝いて起これり。ああ、なんらの特操なき心ぞ、「承りはべり。」と答へたるは。」

そして、相沢の誘いに断りきれずに、引き受けたせいで、後にエリスを裏切ることになる。

本文より、「我が脳中にはただただ我は許すべからぬ罪人なりと思ふ心のみ満ち満ちたりき。」

豊太郎にとっては、自分は許すことのできない罪人であるように、今までの自分のとってきた行動を強く後悔していると思う。

本文より、「ああ、独逸に來し初めに、自ら我が本領を悟りきと書いて、また器械的人物とはならじと誓ひしが、こは足を縛して放たれし鳥のしばし羽を動かして自由を得たりと誇りしにはあらずや。足の糸は解くに由なし。」

豊太郎にとって、「今の私」は、結局は、「昔の私」のままだったと独逸から日本の帰りに初めて気づいた。

つまり、豊太郎は、二度と受動的・器械的人間になるまいと心に決めていたのに、実際の自分は、それを行動に移せずに、結局は今までの自分であるということに気づかずにいた。また、友人の誘いのも断りきれず、曖昧な返事をしたため、エリスを裏切り失うことになった。

豊太郎の今までの経験から、私たちは、自分の意志をしっかり持って行動しなければならないということを学んでほしい。石橋をたたいて渡ろうとする人、つまり、他人の動きを見てから行動する人は、一步踏み出す力がないため、自分の意志をはっきりと示さず、偽りの自分を作ろうとする。しかし、それは、「自分」をしっかり持っていないが故に、友人の誘いにも断りきれないなど、ほんのささいな出来事できえも、後に、大切な人を裏切り、失ってしまい、さらに、信頼というものもなくしてしまうことになる。だから、私たちは、一人一人が自分自身の考えや意志をしっかりともち、はっきりと示していかなければならない。また、自分の意志をしっかり持っていないと、何かを頼まれたとき、何かに誘われたとき、断り切れずに曖昧な返事をして、その場を逃れようとする。しかし、豊太郎の経験からもわかるように、その何気ない一言で、周りの人を傷つけて、裏切ることになってしまう。だから、私たちは自分自身の考えや、意志をしっかりもって生きていかなければならない。また、自分の考えを持つだけで終わるのではなく、その考えを人々に伝えていくことも大切だ。人に自分の気持ちを伝えて、初めてお互いを知るのだから、伝えるということとはとても大変なことだけれど、それ以上に大切なことだと思う。でも、お互いの考えを伝えあったとき、そこで終わってしまうでは意味がない。やっぱり、お互いの意見を通して、そこからまた新しい考えを見いだしたり、また別の考えを見つけることが重要だと思うし、そのときにお互いの考えが違うからといって、「あの人とは合わない」とか、「嫌だ」とか思うのではなく、お互いの意見を尊重して、考えが違う人の意見であっても受け入れ、それを認めることが私たちには必要なのだと思う。「自分の意志をしっかり持つこと」、それは本当に難しいことだ。豊太郎も二度と機械的・受動的人間になるまいと心に決めていた。しかし、結局、元の自分を抜け出せずにいた。だから、今の自分を抜け出して、新しい自分、意志をしっかりとした自分になることは、そう簡単にできることでは無いだろう。しかし、こんな私になりたい、こんなふうになりたいと思うことは大切なことだ。そう思うことで、自分を変えていかなければならぬと思うし、努力しようとするはずだ。豊太郎は今回、自分のとった行動で、人を裏切るという経験をした。それは、罪深いことだと思うけど、こうした出来事があったから、もう二度とその場逃れの曖

味な態度や返事とはならないと思うし、ある意味、自分を変えていくきっかけになったのではないだろうか。だから、私たちは人を裏切ったり、傷つけたりする前に、この豊太郎の経験をきっかけに変わり始めなくてはならないと思う。豊太郎は、自分の経験を回想しながら、この「舞姫」を書いている。そのとき、きっと豊太郎はたくさん後悔したと思う。「あのときああしとけばよかった」「あのときこんなふうにしてたら…」と思うことがあったはずだ。私たちは、これからの人生後悔することはあると思う。でも、そのとき自分で考えて、そのうえで納得して出した結論なら後悔することがあったとしても、きっといい意味での後悔になると思う。だから、今の私たちは、自分の納得のいく生活を送ることが大切だと思うし、一日一日を充実した日にしていかなければならないのだと思う。

これらのことから、私たちは、『自分の意志をしっかり持ち、少しでも自分を変えようと努力すること。』また、『そのためには、毎日の生活を充実した日にする。』ということが大切なのだと思う。